



www.shootingtorino.org/en

「トリノ：映画の首都」。。。。

まるでマントラの中に渦巻いていくリフレインのように、疑問を抱かずにはいられません：でも、トリノは本当に映画の首都なのでしょうか？

- 1** そうです。なぜなら、イタリアに映画がやって来たのは、1896年11月7日のトリノで、それは、パリ市民への初の映写公開から、一年も経っていなかったのです。
- 2** そうです。なぜなら、その時からトリノでの、映画産業は飛躍的に発達し、イタリア映画のため、そしてアメリカ、アジア、オセアニアへ作品を送り出すため、トリノは世界規模においてその拠点となったのです。
- 3** そうです。なぜなら、1910年から1920年にかけて、トリノでいろいろな映画制作の数えきれないほどのオフナーが開花しました。それらは、バラエティに富んだ分野や様式だったので、今日、それらの作品は、その時代の社会や衣装研究の参考となる、歴史的遺産となっています。
- 4** そうです。なぜなら、トリノで1914年に制作されたイタリア初の超大作「カビリア」（ジョヴァンニ・パストローネ監督）は、サイレント映画時代のイタリア映画において、最も長く（3時間10分）、最も制作費のかかった映画だったのです。
- 5** そうです。なぜなら、トリノはいつもイタリア映画の批評の中で、常に中心的な役割を果たして来たからです。たくさんの雑誌が誕生したことや、議論の中心であること、大学には映画に関する講座があることなどが証明しているように、アイデアにあふれ、討論の要でした。特に覚えておきたいのは、アイアーチェ・トリノの活動です。アイアーチェ・トリノは、映画館経営者、所有者、観客そして批評家が構成する協会で、ヨーロッパで最大の映画界ネットワークです。
- 6** そうです。なぜなら、80年代からこの街の理知的な活気は、自主映画製作や前衛的短編映画を育成させ、そしてまた新しい言語や視聴覚メディアを介しての、実験的なプロの可能性の誕生を助長することに、肥沃な土地を提供しているからです。
- 7** そうです。なぜなら、トリノには国立映画博物館があるからです。豊富な価値あるコレクションや、科学的、教育的な活動の多様性において、世界で最も重要な博物館の一つです（高さ3200メートル、5階建て、20,000機器、80,000枚以上のドキュメンタリー写真、300,000枚以上のポスター、映画12,000本、26,000巻）。
- 8** そうです。なぜならトリノでは、イタリアの中でも、多数の映画祭が催されているからです（トリノ映画祭、18歳以下映画祭、環境映画祭、トリノホラー映画祭）。
- 9** そうです。なぜなら、フィルムコミッションのおかげで、近年、トリノは国内外の1000以上の映画撮影の舞台となっているからです。
- 10** 大事なことを一つ言い残しましたが、そうです。なぜなら、2016年から、「シューティング・トリノ」というプログラムが始まるからです。それは、ヨーロッパの重要都市で、歴史的、文化的現実にとっぷりつき、映画の撮り方を学ぶというものです。